



卓話

魅力あるクラブづくりを

ご存じのとおり、ロータリーはクラブがもとになっていますから、皆さんが集まって面白くなきゃ・楽しいクラブでなきゃいけない。そこに親睦というのが大切になります。あわせて、出席することがクラブの活性化につながってきます。そういうことで、魅力あるクラブづくりをしていただきたいと思います。

超我の奉仕

超我の奉仕 (Service Above Self) という標語は、ロータリーの第一標語、第二標語になっています。解釈はいろいろできますが、やはり「自分はさておき、人様を優先する」という考え方でいいんじゃないかと思います。米山梅吉さんは、「サービス第一、自己第二」と書いています。奉仕という言葉は使われていません。日本語の奉仕—仕え奉るといのは、一般の奉仕とはちょっと違うというようにいろんな意味が出てきます。日本では、サービスイコール奉仕で通っているからいいんですけども、次年度ガバナーの小澤さんは、「私はお寺の関係だけれども、超我の奉仕というのには仏様の慈愛の心、慈悲の心と思えばいい。そんなに難しく考えないことよ」。

ラタクルさんの超我の奉仕

ラタクルさんは、「皆さん、これは自問自答してくださいよ」、「奉仕にあたり自ら問いかけてみてください」といっています。

いくつかいわれた中で、「自分達が他の人達にしてあげたことは忘れ、他の人達が自分たちにしてくれたことを心に刻むことができるかどうか」

「世界が我々に対してしてくれることなどに注意を払わず、我々が世界に対ししなければならぬことに考えを集中することができるかどうか」。

要するに「世の中のしくみにグチをいうことに終止符を打ち、自分の周りに一粒でも二粒でも種を蒔ける場所を探すことはできないか」

—この間にイエスということが言えれば、ロータリーのことがよくわかるロータリアンであり、超我の奉仕のことをよく理解しているロータリアンだといわれていました。

これからも勉強させていただきたいと思います。

四谷RCのますますのご繁栄と会員皆様方のご健勝を祈念いたしまして、終わりたいと思います。

卓話

「RIの今年度の方針と地区目標」 ガバナー 古宮 誠一氏

RIのテーマ

RIテーマの「超我の奉仕」は、ロータリーの基本標語とイコールであり、いいテーマではないかと思っています。

ステンハマーRI会長は、ロータリーは単年度制ですけれども、継続を考えるべきだといわれています。

そして、識字率の向上と水の保全という2つの強調事項があげられています。発展途上国には、今なお字が読めない・字が書けないという人達が多い状況だと聞きます。また世界人口 65 億人の2割の 12~3 億人が綺麗な水を飲めないといわれています。もちろん、この問題はロータリーという一団で取り組むには大きな問題ですから、国やユネスコ・ユニセフなどと協力してやっていくことになります。



RIの方針

そのほか、次のテーマに取り組んでいます。

1. 会員増強—各クラブで1人の増強
2. 広報活動—ロータリーのことを一般の人達に知って貰う
3. 女性会員を増やす—会員増強のためではなく、ロータリアンとして相応しい女性会員を増やす
4. 青少年交換—若い人を育てることが世界平和につながるので活発にやっという

地区のテーマ

地区では、RI会長のテーマ「超我の奉仕」を尊重して、テーマは何も設けていません。四谷RCもこのテーマを踏襲されているとのことですから、RIと地区の3つが同じテーマになるわけです。

地区の重点目標は、①魅力あるクラブづくり、②青少年の交換・育成、③ロータリーの基本を学ぶ、の3つですが、四谷RCの各委員会の計画の中には、これらの内容が含まれていることをお見受けし、非常に心強く思いました。

青少年交換学生のドロシーさんの 受入セレモニー

ドロシーさんは、「はじめまして。私はドロシーです。ドイツ人で、16歳になります。趣味はサッカーと音楽です」と挨拶。

ドロシーさんに梶浦会員から花束が贈呈されました。



米山会長から四谷RCのバナーが手渡されました。ドロシーさんがドイツからもってきたバナーは、ドロシーさんがもってくるのを忘れましたので、後日手渡されることになります。